Amir Tsarfati

2021年1月9日「TV-7 タイムズオブザーバー with アミール・ツァルファティ」

ー エゼキエルの時代：聖書の視点からの全体像 ー

[ジョナサン]　シャローム！初回、TV7タイムズ・オブザーバーへ、ようこそ。ジョナサン・ヘッセンです。この番組を一緒に進行してくれるのは、私の大事な友、アミール・ツァルファティ氏です。アミール、お祈りから始めていただいて、さっそく今日の話題に移りましょう。

[アミール]　お父様、あなたが時の創造者であり、私たちが生きている時代と季節についての理解を与えてくださったことに感謝します。お父様、私たちには変えられないものがあり、また、あなたは決して私たちに世界の出来事を変えるようには求めておられません。しかしお父様、あなたは私たちがそれを観察し、見て、そこから学び、そして間違いなく、まもなく、あなたが私たちとなさろうとしていることに備えるように求めておられます。ですから、お父様、今日、私たちがここTV7で始めるこの新番組で、あなたの御名が栄光を受け、あなたのご計画が御言葉によって明らかにされ、あなたの子供たちが大いに励まされますように。またお父様、あなたの子供たちが教育され、備えられますように。
イエシュアの御名で、あなたに感謝し、祝福をささげます。アーメン。

[ジョナサン]　アミール、エキサイティングな時代ですね。タイムズ・オブザーバーを始めるエキサイティングな時間です。聖書に基づいた視点から全体像を伝え、現実と聖書の預言との間に文脈を作り、「私たちはこの時代と、どのように関係しているのか？」を理解していきます。

[アミール]　その通り。
[ジョナサン]　私たちは、この世界にはいますが、この世の者ではありませんから、私たちは観察します。ときには積極的にそれをして、誰のためにどう祈るかを理解し、本当にひとつのユニット、ひとつの体として団結するように務めます。では、舞台設定をしましょう。イスラエルがあります。北部区域があって、少なくとも私が覚えている限り、あるいは広範囲に調べてみた限りでは、初めて北部戦線は一つの作戦区域になっています。レバノンとシリアが一緒になって、トルコが、もちろん方程式の一方にいて、ロシアもこの区域で自由に動いています。また、イランもこの区域で活動しています。聖書に出てくる3つの国です。もちろん、そこから派生した国々です。聖書の中で北部戦線がこんにちの現実を、どのようにもたらしていると

思いますか？

[アミール] そうですね、まず第一にイスラエルが誕生した時、イスラエルの周囲全てがイスラエルに対して非常に敵対的であった事が、聖書に書かれています。実際、詩篇83篇は、私たちを取り巻いているすべての国々、つまり、こんにちのレバノン、シリア、ヨルダン、エジプト、彼らの全員が、私たちが国家になるのを止めようとしました。「イスラエルの名が、もはや覚えられないようにしよう」（詩篇83篇4節参照）覚えておいてください。「パレスチナは、これからイスラエル国家と呼ばれる」と私たちが宣言してから1時間もたたないうちに‥、ちなみにアメリカの国務省でさえ、この国の名前が何になるのか知らなかったのです。ですからトルーマン大統領がそれを認識すると発表した時には、彼は「ユダヤ国家」と言っていて、ベン・グリオンの宣言を聞いてから、それを線で消して、「イスラエル」と書き替えたんです。イスラエルの名前が、そのゲームチェンジャーですから。ですから、まさにこれが理由で私たちの周りの国々はすべて、「イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう」と望んだのです。そして、もちろん当時の我々はとても弱く、とても小さく、すべてのインフラも強さも力も不足していました。でも、それは神の御業だったのです。エゼキエル36章にあるユダヤ人の大量帰還のために、その土地を準備されたのは神です。ヨーロッパのホロコーストから残りの民を救出し、彼らを物理的に連れて来られたのは神です。

ご存知のように、今はあちらこちらの難民が安全な場所に行けるように世界中が支援していますが、誰も私たちを助けてくれませんでした。誰も、です。そして、私たちは大量虐殺にさらされました。それは最もよく記録されていて、加害者たちも認めています。そして同時に、主は私たちを連れ戻しただけでなく、私たちをかくまい、保護してくださったので、周りの国々も、結局あきらめました。そして、1973年には、すでにヨルダンは来(きた)るべき戦争に参加しないと決断し、1979年、エジプトは、もうイスラエルとは戦争をしないと決め、和平条約に調印しました。そしてシリアで何が起こっているのかというと、基本的にそれはもはや主権国家として存在しておらず、レバノンも同じような状態に向かっています。ですから、ここで私たちは今、イスラエルに関する神の驚くべき物語の次章に向かって進んでいます。詩篇83篇からエゼキエル38章へと。私は、彼らを「第一層の国々」と呼んでいますが、イスラエルと国境を接する周辺の国々によってほぼ全滅させられかけていた国から、今や、中東の強力なプレーヤーへと移行しています。聞くところによると、私たちは世界で8番目の大国です。そして、今や我々はエネルギー大国、技術大国、サイバーセキュリティ大国であり、医療、工学、金融、技術、その全てにおいてイスラエルは、今や世界がもはや無視する事ができない巨大な大国です。そして初めて‥、ほら、私たちが生きているのはシェバとデダンというサウジアラビアや湾岸諸国のあの部分が、イスラエルとの和平を実現するために、いま集まってきている時代です。これは驚くべき事です。それはエゼキエル書38章につながりますから。

エゼキエル38章によると、加害者、攻撃する者たちが北から来ますが、しかし、それに抗議する者がいて、それがシェバとデダンです。そしてほら、見てください！ジョナサン、我々がまさにその世代です！私たちの親の世代はイスラエルの誕生を目の当たりにしましたが、いま我々はエゼキエル38章への移行期を見ているのです。中東の全ての舞台が整いつつあるのを見ています。私たちが知っている通り、マゴクの地から来るゴグが、ここで言及されているすべての国々、こんにちのトルコ、イラン、ロシアを率いて、もちろん、南と東からはリビアとスーダンが来ますが、どちらの国も、現実には自身で決定する力はありません。明らかに、彼らの上に立って彼らを操作する国が存在します。

[ジョナサン] それから我々が知っておくべき、非常に重要なことは、私の目にはとても明白に見えますが、誰もがそうではないのは承知しています。我々が”ロシア”や”イラン”や”トルコ”という時、そこの国民自

身の話をしているわけではないのです。私にはその3カ国全てにたくさんの友人がいて、私たちは彼らを心から愛しています。キリストにある兄弟姉妹が大勢います。イランはキリスト教が現在、世界で最も旧ソックに
成長している国の一つです。すごいことですよ！

[アミール]　ビホールド・イスラエルには、ペルシャ語のYouTubeチャンネルがあります。
[ジョナサン]　すごいですね！
[アミール]　私たちはイラン人に教えているんです。私たちは、ほとんどのイラン人はアッヤットラー　がしていることに同意していないと信じています。

[ジョナサン]　その通りです。
[アミール]　しかし残念ながら、アッヤットラーが、現在、権力を握っています。
[ジョナサン]　正解です。したがって、私たちが言及しているのは大勢のことで‥
[アミール]　エルドアンと同様、エルドアンも同じです。ロシア人にプーチンは国を治めるべき人間ではないと言えますか？何処かで変な毒をもられるかもしれませんから、警戒しなければなりません。ええ、私たちがそれらの国の話をするときは指導者の話をしているんです。指導部は民衆の意志に反しているかもしれません。とは言っても、指導部は軍事力をコントロールしていて、それがこの攻撃を行使するわけで、ありがたいことに、ほかの国ではなく、神ご自身によって取り扱われます。

[ジョナサン]　そしてそれは、いま名前があがった、今のこの指導者かもしれないし、将来的な指導者かもしれない。それが必ずしも、こんにちの指導者なのかどうかは分かりませんが。

[アミール]　特にイランの場合はそうですね。この最高指導者を失ったかもしれない、という噂がありますから。

[ジョナサン]　そうですね。噂が出ていますが、もちろんこの段階では立証も裏付けもされていませんので、そういう点は控(ひか)えるようにしています。しかし、さまざまな国の話をしていると、いろいろな疑問が湧いてきます。また、たとえばサウジアラビアが、ある時点でイスラエルとの関係を正常化し、何らかの形で北からの攻撃を非難したり、抗議したりするとも書かれています。今週聞いたばかりですが‥、いや、正確には先週ですね。マナマ対話フォーラムで、トゥルキ・アル・サウード王子が出てきて、「イスラエルよ。あなたは中東の一部を植民地化した最後の西洋人だ。」と言ったのを聞きました。要するに、こう言っているんです。「あなたは、私たちの真っ只中にいる よそ者だ。」

[アミール]　そうですね。
[ジョナサン]　これは、どういう状況なのでしょうか。これは古い世代からのものなんでしょうか？彼は70代で、古い世界の人で、彼らはイスラエルの存在を心底からは受け入れないことに、まだ、しがみつきたいと思っているためでしょうか？ それとも、これは多大な進歩があったのに、まだ再浮上しようとしている感情なのでしょうか？

[アミール]　そうれは、その二つが組み合わさったものだと思います。一方では古い考えにしがみついている上の世代がいて、でもその一方で、中東では「言葉には所得税はかからない」と言われますよね？重要なのは、言葉ではなく行動です。私が最近確認したところでは、サウジアラビアは、イスラエルの飛行機がその領空を飛ぶことに合意したところです。これは正常化です。正常化は書面上のものではありません。地上や空中にあるものです。私が最近確認したところでは、中東の一部を植民地化している国のリーダーであるイスラエルの首相が、サウジアラビアの皇太子に一対一で会いに行きました。サウジアラビアのナンバー３でもナンバー５でもなく、ナンバー２の人物です。どこで？ネオムで。つまり、ネオムは新しい世代、新しいサウジアラビアの象徴です。

[ジョナサン]　「ネオ」は、ギリシャ語で「新しい」ですね？
[アミール]　その通り。
[ジョナサン]　「モスタクバル」の「M」、「未来」の「M」。
[アミール]　その通りです！「未来」「新しい未来」「新しいリーダーシップ」「新しい考え方」。モハメド・ビン・サルマンの親友の、ジャーナリストであり弁護士でもある人が、ほんの数週間前に、主要新聞のひとつに「アル・アクサはサウジアラビアにある。エルサレムにはない。」と書いたほどです。「あなたがたは、ユダヤ人に何を求めているのか？実際、サウジアラビアには、イスラム教の聖地が三つとも含まれており、したがってアル・アクサはイスラム教にとっては聖地ではなく、ユダヤ教にとっての聖地なのだ。」され、これはサウジアラビアの公的な新聞に載っていたんです。ですから、確かに旧世代はまだ言葉では古い見解に敬意を払っていますが、行動からは違う現実が見えています。ジョナサン、私たちは生きてこれを見ているんです。私たちの親の世界は見れなかった。これは、かなりすごいことです。今、こうしている間にも、イスラエル人たちがブルジュ・ハリファ（世界一の超高層ビル）や、ブルジュ・アル・アラブ（ドバイの五つ星ホテル）を楽しみ、ドバイの街を自由に闊歩（かっぽ）していることを想像できましたか？

[ジョナサン]　外国のパスポートを持っていなければ、もちろん無理でした。
[アミール]　もし外国のパスポートを持っていても、ヤムルカ（キッパ：ユダヤ人男性の帽子）を持っていたら、それを隠したでしょう。自分がイスラエル人であることは絶対に表さなかったんです。こんにちドバイの市場では、イスラエルの国旗がイスラエルの農産物の表示の横にあります。これは前代未聞なことです

[ジョナサン]　全くその通りです。私たちが生きているこの現実は、たしかに現実で、神を賛美します。
[アミール]　はい、そうですね！
[ジョナサン]　神をほめたたえます！なぜなら、究極的には平和がある時には、戦争は私たちから離れていて、私たちは戦争を望んでいませんから。私たちが戦いわけではありません‥

[アミール]　ほら、戦争は起こるんです。それから逃げることはできません。
[ジョナサン]　起こりますね。
[アミール]　でも、それまでは‥
[ジョナサン]　私たちは可能な限り、それを避けるために、できる限りのことをします。私たちがキリストが戻って来られるのを、大きく期待しているという事実、主は私たちを主のみもとに集めてくださり、最終的に私たちが戻って来ることを‥

[アミール]　主とともに。ジョナサン、聖書を信じる人たちの多くが「平和」という言葉を恐れているのを知っていますか？彼らはすぐに「平和」という言葉を反キリストと結びつけます。これは悲しいことです。反キリストは平和をもたらします。それについては疑いの余地はありませんが、それは長続きしない偽りの平和です。そして、それは基本的にユダヤ人をだまして、後で、彼を”カミ”として受け入れさせる平和です。それ以下のなにものでもありません。しかし聖書は、私たちがエゼキエル書の中の預言を見て、エゼキエル書38章の扉の中に入ると、イスラエルは安全で、安心して、繁栄していると書かれています。ここには平和の要素があるんです。そして、その後に戦争が起こります。そして、私が言いたいのは‥、中東に平和があるたびに、常にパニックにならないようにしなければなりません。聖書の預言の多くが起こるためには、平和がなければなりません。戦争によっては、サウジアラビアや首長国連邦がイスラエルを支援するようにはなりません。それをもたらすのは、基本的には平和です。ですから、エゼキエルが実現するためには、その前に平和がなければなりません。そうして、彼らはイスラエルに対する戦争に抗議するのです。したがって、中東の平和を、すぐに反キリストと結びつく悪いものとして見るべきではありません。いや、そうではありません。いくつか、一定のことが起こらなければなりません。大使館をエルサレムに移すこと、それは起こらなければならないことです。私たちがいなくなった時に、もしもエルサレムが首都ではなくて、そこである程度の主権を持っていないなら、どうやって神殿を建てるのですか？だから、私が言おうとしているのは、こういう番組によって、私たちはここにある出来事について人々に正しい視点を与えることができるんです。

[ジョナサン]　全くその通りです。私がいつも言っておくのが非常に重要だと思っていることの一つは、シオンの山は、どういうものかということです。モリヤの山が神と人とをつなぐものでないとしたら、一体何なのか。アブラハムに対する、神の約束のポイントです。アブラハムは、最終的にその子孫を通して、主の御名を全ての国に述べ伝えました。この預言もまた、最終的に成就しました。しかし、いま私たちの耳に届いているのは、たとえばエルサレムの舞台裏で、トルコのレジェップ・タイップ・エルドアン大統領の声明について、たくさんの懸念が起こっていることです。彼は言いました。「エルサレムはオスマン帝国の都市であり、そのようにみなされるべきだ。」そして最終的には、北米ムスリム連盟やアメリカのさまざまな組織に対するスピーチの中で、エルドアンは再び宣言しました。「エルサレムを守っているのは誰か。エルサエムのために戦っているのは誰か。トルコなのだ。」そして、毎回、何度も何度も何度もそれを強調しています。そして、私は最終的には、それは霊的なものであるのと同じくらい物理的なものだと思っています。少し洞察を聞かせてください。このエルサレム再征服への熱望に関連した聖書の預言とはなんでしょうか？

[アミール]　それは面白い質問です。ジョナサン。なぜかというと、たとえばイスラエルとイランとの紛争は、誰もが理解しています。イランは核兵器開発を望んでおり、イランはテロ組織に資金提供をしており、イスラエルがターゲットになっているので、当然ながらイスラエルは、イランのアッヤットラーたちと明確に対立しています。しかしイスラエルは、トルコとは長い間、同盟関係にありました。実際、トルコは80年台から90年代にかけて、イスラエルの最大の同盟国でした。そして、もちろんエルドアンが政権を取ってからは状況はガラッと変わり、違う様相になってきました。面白いのは、彼がイスタンブール市長だったとき、彼は実際に現地のクルド人を容認し、彼らの世話をし、彼らの母国語を話してよいと告げたそうです。私は、これをクルド人から昨日聞いたんです！それが興味深いことに、彼は今や180度方向転換をして、自身がオスマン帝国を復活させようとしています。さて、彼は当時から心の奥底で、そう考えていたかもしれません。しかし、今やそれを実行するための力あるポジションにあるのです。ですから、私は我々がなぜイランと戦うのか、また、イランがなぜ我々を滅ぼしたがるのかは理解できます。しかし、トルコはどうでしょうか？トルコはエルサレムを支配したがっています。とてもとてもシンプルです。エルドアンは、それを隠すどころか、口に出して言っています。彼はすでに東エルサレムの中に、いくつかの慈善団体を持っています。彼は神殿の丘の問題に口出ししてきます。彼はできる限りのことをして弱体化させ、サウジに何らかの支配権を与え、ヨルダンに支配圏を維持させようとしています。彼はスンニ派界を支配したいのです。私は「アラブ世界を」とも言いませんよ。彼はそれには関心がありません。

[ジョナサン]　そしてエルドアンは、それを正当なものだと考えています。
[アミール]　そう、そうですね。明らかにそうです。
[ジョナサン]　ある時点で‥
[アミール]　ほら、考えてみれば彼は正しい、正しいのです。彼はエルサレムを支配しました。
[ジョナサン]　そうですね。オスマン帝国はユダ王国よりも、もっとエルサレムを支配していました。
[アミール]　その通りです！
[ジョナサン]　517年から1917年まで‥
[アミール]　1517年ね。
[ジョナサン]　1517年から1917年まで。
[アミール]　400年間。
[ジョナサン]　400年にわたってエルサレムを支配し、最終的にエルサレムと、その地域を失いました‥
[アミール]　彼らにとっては大打撃です。

[ジョナサン]　‥アウグスタ・ヴィクトリアでのイギリス人との条約に調印した時、それはレガシーの重要な基本要素であり、オスマン帝国がモンゴルを打ち破ったポイントでもあります。

[アミール]　そうです。その通り、それが大事なんです。ちなみに、私たちはイラン人がペルシャ帝国を復活させようとしているのも見ています。ロシアも皇帝時代を復活させたいと考えており、トルコはオスマン

帝国を復活させたがっています。3カ国とも、歴史をさかのぼって昔の自分たちの姿を見て、いま、これらのものを復活させたがっています。しかし、イランが積極的にイスラエルを軍事的に攻撃、あるいはその準備をしていれば、トルコは他の手段、他の方法でイスラエルを妨害しようとしています。そして最終的には、イスラエルの取る姿勢は‥。ほら、彼がエルサレムに手を出せないなら、それは明らかに屈辱です。彼がリーダーになれなかったら‥。だから何が起こるのかというと、ロシアが攻撃の先頭に立つチャンスが来て、イランも独自の理由で参加するでしょう。ファフリザデの暗殺は、その一つに過ぎません。トルコも独自の理由があって参加するでしょう。エルサレムを支配し、オスマン帝国を復活させるために。皆、それぞれの理由があるのです。神には2700年前にこれが見えていて、そして預言者エゼキエルは、今日の新聞や今日のテレビ、少なくとも、それらのほとんどよりも正確です。感謝なことに、預言者エゼキエルはここ、このスタジオでは注目を得ています。これは真理であり、いのちであり、道です。皆、好きなように言えばよいですが、あなたも私も知っていますね。中東のアナリストの中には、パレスチナ人との間で何かが動く前にアラブ諸国との和平が起こるのを予期できた人は、一人もいませんでした。一人もいません。「パレスチナ人と和平を結ばない限り、湾岸諸国との和平はあり得ない。」と、いつも言われていました。私たちは皆、間違っていたと証明されました。聖書は間違っていると証明されたことは、一度もありません。聖書を読めば次のことがわかります。A)聖書には、パレスチナ国家はない。B)アラブ諸国が我々に干渉しない、とは聖書には書かれていない。実際には、彼らがイスラエルへの攻撃に抗議しているのを見ます。では、それをどうやって説明しますか？それが、どう一致するのか？過去3年間に起こったのかを見ればわかります。ほら、信じられませんね。3年前、アメリカ合衆国の大統領は、エルサレムをイスラエルの首都として認めました。そして2年半前、彼は大使館をエルサレムに移しました。そして、まだ半年も経っていませんが、アラブ諸国はイスラエルとの和平調印、あるいは少なくとも正常化に向けた調印を、次々と始めました。私たちはそのような時代、エゼキエルの日々を生きています。

[ジョナサン]　すごいですね。
[アミール]　今は、エゼキエルの日々です。人々が語っているどんなことよりも、これ『聖書』が正確であることを理解しなければ、この世界で何が起こっているのか、決して理解できません。

[ジョナサン]　私たちは、ものすごい時代に生きていると言っても過言ではありません。しかし、エルサレムの平和のために祈ること以外に、信者である私たちにとって、実際に何を意味するのでしょうか？神は私たちに、ただ祈るだけではなく、実際にエルサレムの平和を求めるように命じておられます。しかし、それ以上に、私たちには何ができるでしょうか？

[アミール]　そうですね。私が思うに、神がご自分の子供たちに預言者の言葉を与えられた大きな理由の一つは、A)彼らが恐れないように。B)彼らに準備ができるように。これら2つのことです。ここにあるものは、どれも信者を怖がらせるのではなく、信者に準備をさせるためのものです。そして、私は教会の携挙がまじかに迫っていると信じています。そして、すでにお話ししたように、マタイ25章1–13節の「10人のおとめ」の通り、多くの人が、自分はクリスチャンだと考え、彼らは聖書に従っていると思っていますが、彼らは聖霊を持っていません。彼らは、主と個人的な関係を持っておらず、そして、彼らは救われていないんです。彼らは、ただ宗教的なだけです。そして、私が確信しているのは、最後の最後に近づくにつれて、ほら、さっき読みました。

「‥戸が閉められた。そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま、開けてください』と言った。しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と言った。」（10〜12節）

自分と関わっている人のことは知っていますね。私が言いたいのは、私たちがここでしていることや、ここで話していること、すべての要点は、「用意はできてますか？」ということです。用意はできてますか？食べ物を買うことじゃありません。食料はシェルターや、弾薬を購入する必要はありません。自分の心と生き方をチェックしてみてください。そして、それが問題なのです。

[ジョナサン]　そして、私が思うに、ひとつの礎石は、神が、イエスが私たちを読んでおられるんです。いいですね？イエスの話をしてください。あなたが顔を合わせている、あなたたちのご友人、ご家族が信者でないなら、彼らに伝えてください。彼らに言ってください。「あなたを愛しているからこそ、私が信じていることを伝えたいんです。なぜなら、私は天国であなたと一緒にいたいから。私は心の底から、私の魂と存在と知性をもって確信しています。これが私のいく先で、これが唯一の道です。」

[アミール]　ええ。イエスは、私たちを迎えに来られる時に、私たちが御父の嗣業（御業）をしているところを見たいと、はっきりと言われています。私たちは、御父に仕えていなさい、と。そして、以前言ったように、私たちには「ゴスピル」が詰まった箱が与えられていると信じています。あとは、それを人々に渡すだけです。彼らがそれを受け取るかどうかは、彼らの問題です。しかし、私たちは彼らにそれを渡す必要があります。私たちは、彼らが特定の宣言や信仰を告白するのを待って、自分の手柄を得る必要はないのです。「ある人が植えて、他の人が水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」（第1コリント3:6–8参照）あなたや、あなたの発言が全てであるかのように、自分の手柄にしてはいけません。ただ種を蒔き、水を注がなければなりません。

[ジョナサン]　御国のために先を見越して働くことは、とても重要だと思います。特にあなたが指摘したように、「主よ、主よ」と言う人はたくさんいます。しかし、イエスが戻って来られる日には、彼は多くの人に質問をされるでしょう。そしてご存知のように、預言は非常にはっきりとしていて、残りの民が戻ってきます。シェアル・ヤシュブ。イザヤは彼の子供の名前を通して、このことを預言しています。しかし、番組が終わりに近づいていますので、ちょっと触れておきたいことがあります。今回は、この新しい番組の踏み台、第一回目です。私たちは各国、ひとつひとつのニュース記事、この1ヶ月内に起こったで出来事をそれぞれ振り返り、それを通してお伝えしていきます。アミールが聖書に基づいた、たくさんの洞察を通して、私たちに状況を教え、私はトゥディズニュース、TV７イスラエルニュース、あなたの情報源、その他から得られるニュースをもとに、難しい質問をしていきたいと思います。アミール、どうもありがとうございます。

[アミール]　ありがとう。
[ジョナサン]　そして、今日はこの辺で失礼いたします。視聴者の皆さんにも感謝したいと思います。次回のTV7タイムズ・オブザーバーで、またお会いしましょう。シャローム！

⬅️スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :http://beholdisrael.org/
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ
2021.02.03 (Wed)